

「火山からの噴出物」 2002年

期間：11月1日～11月29日

相模川の河口部に位置する平塚市は、富士・箱根火山の東側にあたるため、上空を吹く偏西風により、大磯丘陵には厚い火山灰（ローム層）が堆積しています。火山からの噴出物には、粒子の細かい火山灰の他に、1～数cmある軽石やスコリア、溶岩の破片もあり、土屋の遠藤原では、箱根火山から噴出した火砕流が厚さ10m以上積もっています。火砕流は雲仙普賢岳の噴火で有名となりました。

富士や箱根火山の火山本体では、火口から噴出された厚い溶岩や、放出された火山弾や火山岩塊などを間近に見ることが出来ます。マグマの性質（化学成分）の違いによって、噴火の仕方（溶岩をたくさん流すか、爆発ばかりするか等）や、岩石の色調、粘り気等が異なります。箱根火山でいえば、大涌谷で知られた神山は溶岩と火砕物を繰り返し噴出してできあがった

成層火山ですが、二子山や駒ヶ岳等は粘り気の強い溶岩が、普賢岳のように盛り上がった溶岩円頂丘と呼ばれる火山です。

今回の寄贈品コーナーでは、今まで博物館で収集してきた、富士火山や箱根火山の噴出物を中心に、火山から噴出された様々な噴出物について、展示します。

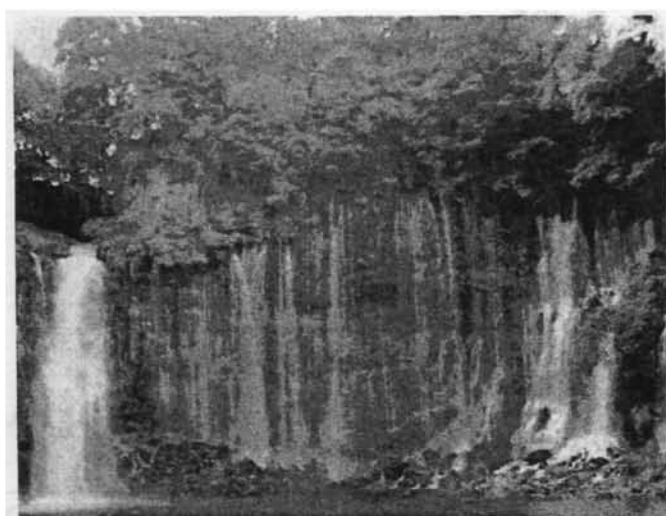
また、丹沢山塊や高麗山等にもかつての海底火山の噴出物が厚く堆積しており、グリーンタフとして知られています。その中には、火山灰の固まった凝灰岩の他に、水中に流出した溶岩であることを示す枕状溶岩、水中で破砕された溶岩角礫岩（ハイアロクラスタイト）、マグマの通り道を示す岩脈もよく観察されます。現在では、箱根火山の東側には火山はありませんが、かつては、相模川付近が火山最前線（火山フロント）であったことを物語っています。



外輪山の丸岳から見た中央火口丘神山と神山崩れによる扇状地と芦ノ湖



箱根の外輪山溶岩が冷却する際にできた板状節理(小田原市米神)



8000年ほど前に流れた白糸の滝溶岩からなる白糸の滝



溶岩が樹木を取りこんで作られた溶岩樹型（河口湖町）